

6. 駅前空間整備の進め方

「5.駅前空間の全体構想」を実現するためには、整備条件や施設相互の関係などを考慮しながら、整備を順次進めていく必要があります。ここでは駅前空間の整備の進め方について整理します。

1) 基本的考え方

駅前広場を中心とする都市基盤整備は、新空港線の事業実施や駅舎・駅ビルや駅前周辺街区の更新などとの連携が必要な整備もあり、蒲田駅周辺再編プロジェクト策定から5年以内を目途に着手をめざす「初動期整備」と、初動期整備に引き続き条件が整ったものから順次着手する「中・長期整備」に整理します。

駅前空間整備の進め方

初動期（～5年程度）

- 駅前空間再編の端緒となる公共空間を中心とした整備
- 蒲田駅周辺再編プロジェクト策定から5年以内を目途に着手

初動期整備計画

初動期で整備を行う都市基盤について、「7. 初動期整備計画」でまとめます。

(初動期整備の概要)

- 東口駅前広場拡張による暫定整備
- 東口駅前広場地下自転車駐車場整備
- 西口駅前広場の再整備(南側のフラット化など)

中・長期（～10・20年程度）

- 新空港線の事業実施や駅ビル・駅前周辺街区の建替えなどと連携した検討・整備
- 初動期整備に引き続き、実現化条件が整ったものから順次着手

中・長期整備指針

将来の都市基盤整備のほか、その整備を進めていくうえで前提となる新空港線や駅舎・駅ビル、周辺街区も含めて、整備内容と整備条件・課題を「8. 中・長期整備指針」でまとめます。

(中・長期整備の概要)

- 駅前周辺街区と連携した駅前広場の拡張
- 新空港線整備を踏まえた駅前広場機能の拡充
- 駅舎・駅ビルの機能更新などに合わせた自由通路の整備

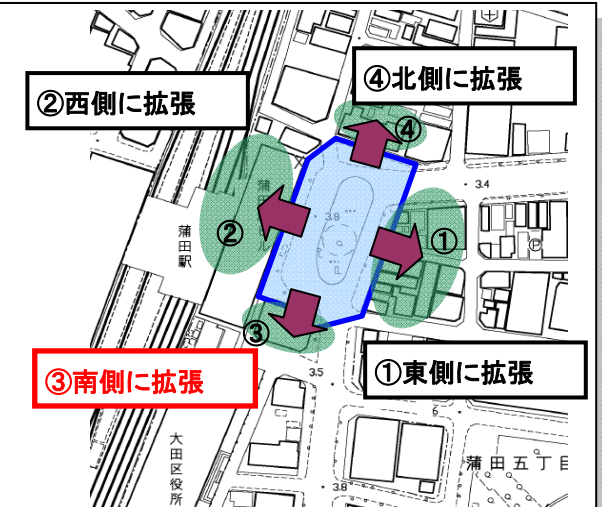
2) 駅前広場面積拡張の考え方

歩行者環境の改善や交通施設の集約など交通結節機能の強化を図るためには、広場面積の拡張が必要であることから、拡張の考え方を示します。

①東口駅前広場面積の拡張

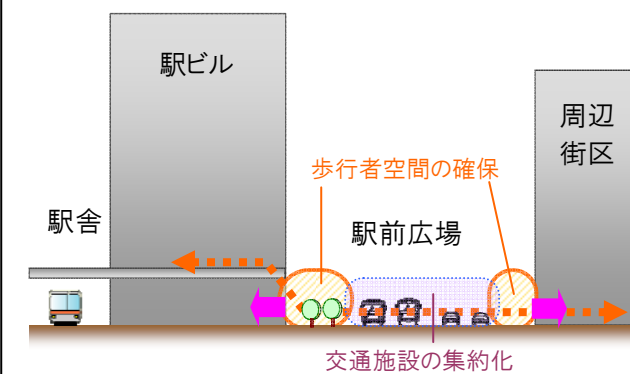
パターン1: 民間用地の取得

- ・初動期は、南側の歩行者交通量への対応、駅前広場の南北広がりバランス、新空港線への対応等を考慮し、南側(右図③)に拡張
- ・新空港線の整備に影響する民間用地の取得



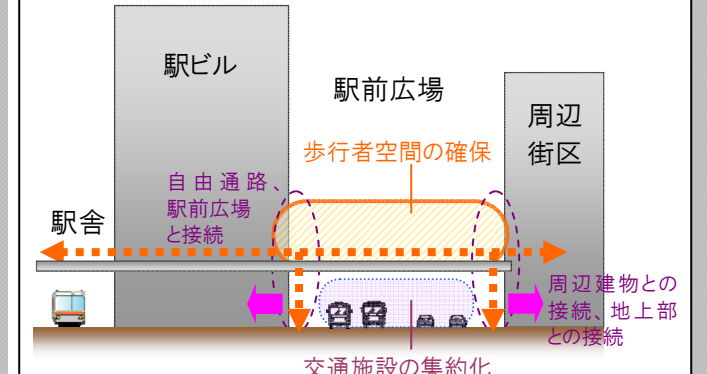
パターン2: 地上部の拡張

- ・駅ビル、駅前広場周辺街区と今後の協議により、建替ルール(低層部セットバック等)により歩行者空間を確保



パターン3: 上空利用による拡張

- ・ペDESTリアンデッキ等での上空利用による拡張



②西口駅前広場面積の拡張

- ・駅ビル、駅前広場周辺街区と今後の協議により、建替ルール(低層部セットバック等)により歩行者空間を確保

3)東西駅前空間整備の進め方

「1)基本的考え方」で示した都市基盤の段階的整備を踏まえて、東西駅前広場における初動期、中・長期の整備の概要について整理します。

①東口駅前広場

【将来目標】

1. 歩行者環境改善による駅利用者の快適な利用と駅周辺への回遊性の創出
2. 交通機能の集約・再配置による公共交通利便性の向上
3. 自転車駐車場整備による自転車利用環境の向上と暫定自転車駐車場跡地の活用

初動期整備

【初動期整備の目標】 歩行者環境の改善を重視した整備

●駅前広場南側用地の取得を前提とする整備

【整備概要】

用地取得による拡張部を含めた初動期における地上部での駅前広場の整備を検討

1.歩道拡幅等による歩行者空間の確保

- ・歩行者集中による交錯が発生している歩道を拡幅するとともに、回遊の主動線となるぼがらード・中央通り・アロマスクエア方向の歩行者空間を改善し、サービス水準・A 水準を確保する

2.交通施設の配置変更

- ・補助 36 号線のバス乗車・降車場の駅前広場への集約に向け、広場の拡張に合わせて、まず、降車場を駅前広場内に配置する(自転車走行空間を考慮)
※乗車場を集約する場合は、その一部が補助 36 号線に残る
- ・バス乗車・降車場箇所数を調整し、コンパクト化を図る
- ・交通島をタクシー待機場として活用する

3.一般車両の動線変更

- ・駅前広場内に進入していた一般車動線を分離し、バス・タクシーとの交錯を解消する

中・長期整備

【中・長期整備の目標】 初動期整備に続く交通施設の集約化

●駅前広場上空利用などによる更なる駅前広場面積拡張を前提

●新空港線整備に影響する用地の取得

【整備概要】

更なる面積拡張と周辺施設更新の状況を踏まえ、整備条件が整ったところから順次整備

1.駅前広場の面積拡張

- ・駅ビル・周辺街区と今後の協議により、建替えルール(低層部セットバック等)により歩行者空間を確保する
- ・交通機能を駅前広場に集約するため、地上の歩行者空間の一部をペDESTリアンデッキなどにより確保し、交通島の横断歩道を解消し交通施設を再配置する

2.交通施設の駅前広場への集約

- ・補助 36 号線のバス乗車場を駅前広場に配置する。(自転車走行空間を考慮)
- ・交通島をバス乗車・降車場、タクシー待機場として活用する

3.自由通路と駅前広場・周辺街区の結節

- ・駅舎・駅ビル更新に合わせて新たに設置する自由通路とペDESTリアンデッキを接続し、駅前広場地上部や周辺街区へ繋ぐことで、バス利用の利便性や駅周辺への回遊性の向上を図る

4.新空港線整備を踏まえた駅前広場機能の拡充

- ・整備に影響する用地取得及び、交通施設を再配置する

②西口駅前空間

【将来目標】

1. オープンスペース確保による歩行者環境の改善と商店街との一体的な賑わいの創出
2. 新空港線事業化を踏まえた交通機能の再配置による公共交通利便性の向上

初動期整備

【初動期整備の目標】 歩行者環境の改善を重視した整備

【整備概要】

既存駅前広場の形状を活かしつつ、歩行者環境やにぎわい創出空間整備を検討

1.歩行者動線整備による歩行者環境の改善

- ・駅前広場南側スペースを活かした駅前空間をつくるため、歩行者動線の改善を図るとともに駅と商店街を繋ぐオープンスペースを強調したにぎわい創出の拠点となる整備を行う
- ・駅前広場北側の歩行者動線を整備し、快適な歩行者環境を確保する

中・長期整備

【中・長期整備の目標】 交通結節機能の強化

●駅ビル、周辺街区建替えに合わせた地上空間確保も含めた整備

【整備概要】

初動期整備による駅前広場の利用状況や新空港線事業化、周辺施設の更新の状況を踏まえた整備

1.交通施設の再配置の検討

- ・分散配置されているバス乗車・降車場の駅前広場への集約やタクシー待機場の設置について、交通島も含めて再配置を検討した上で整備する

2.自由通路と駅前広場の結節

- ・駅周辺への回遊性向上につながる、駅舎・駅ビル更新に合わせて新たに設置する自由通路から駅前広場への動線を整備する

3.新空港線新駅への出入口など

- ・新駅への出入口や連絡通路を確保する

4.歩道拡幅等による歩行者空間の確保

- ・補助 37 号線のバス乗車場付近の歩道を拡幅し、ゆとりある歩道空間を確保する
※中央分離帯撤去、バス乗車場の再配置の考え方により整備時期変更の可能性あり

③東口駅前広場地下自転車駐車場

【整備目標】

1. 緑道整備や歩行者環境の改善を図るため暫定自転車駐車場を解消する
2. 駅周辺の放置自転車を解消するため利用しやすい自転車駐車場を整備する
3. 歩行者・自転車の安全を確保するための自転車走行空間を整備する

【整備概要】

東口駅前広場の初動期整備に合わせ地下空間を活用した整備の検討

1. 初動期整備

- ・地下空間に自走式平置きと機械式を併用し、利用区分と需要に対応した設置を行う
- ・利用者の走行動線を考慮した位置に出入口を設置する
- ・北側地下通路を活用し、自転車通行(押し歩き)が可能な東西連絡通路を確保する

2. 中・長期整備

- ・駅ビルや周辺建物の更新に合わせた連絡通路や初動期で対応できなかった整備課題を検討する